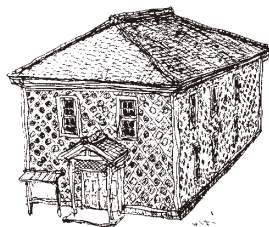


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のルソー、デイベトを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875(明治8)年に開館した日本最初の演説会堂です。

●薬学部長・薬学研究科委員長

かなざわひでこ
金澤秀子

薬学部開設10周年を迎えて

慶應義塾大学薬学部は、2018年4月に開設10周年を迎えました。2008年4月に薬学教育77年の伝統を有する共立薬科大学との合併により、慶應義塾の10番目の学部として誕生しました。当時は2006年に薬剤師の臨床能力を培うことを目的に、薬剤師教育年限が延長され6年制薬学教育がスタートしたばかりで、大学合併ということでテレビや新聞で大きく報道されました。まさしく慶應薬学の歴史が6年制薬剤師教育の歴史でもあるといえます。現在では医学部、看護医療学部、薬学部の医療系3学部合同のインタープロフェッショナル教育を行うなど、慶應の特徴ある医療教育を推進しております。今後は、6年制教育を修了した学生が医療の場で、どのように活躍できるのか、真価が問われることとなります。

薬学部では、薬剤師を養成する6年制の薬学科と、創薬研究者を養成する4年制の薬科学科の2つの学科を有しています。それぞれ特徴あるカリキュラムにより、病院・薬局において指導的役割を担う優れた薬剤師、行政や製薬企業においても指導的役割を担う人材、国際的に活躍するグローバルな薬学研究者

の育成を目標としています。薬学部生・大学院生の進路は、病院、薬局から製薬企業、行政、シンクタンクまで大変幅広くなっています。学生の多様性を尊重し、米国やタイなどの海外提携校での病院研修などさまざまな国際交流プログラムを設け、グローバルに活躍できる人材の養成に力を入れています。

今年には薬学部の産学連携研究拠点である創薬研究センターが本格的に始動します。我が国は、少子超高齢社会を迎え社会環境が大きく変化しており、また近年の科学技術の進歩により医療を取り巻く環境も大きく変化しています。このような激動する社会においても医療に携わる者として、その専門性を活かした「自我作占」の精神をもって自らの力で前人未到の未来医療を切り拓いていけるような人材を育成することが我々の使命であると考えております。慶應薬学を発展させ、医学部をはじめ他学部との研究連携を強化し、学際的な研究環境の中で優れた薬学研究者、そして医療の場でリーダーとなる優れた薬剤師を輩出すべく教育研究を進めていきたいと思っております。